

# ファイアレスシリーズ センサー 180°



## 取扱説明書

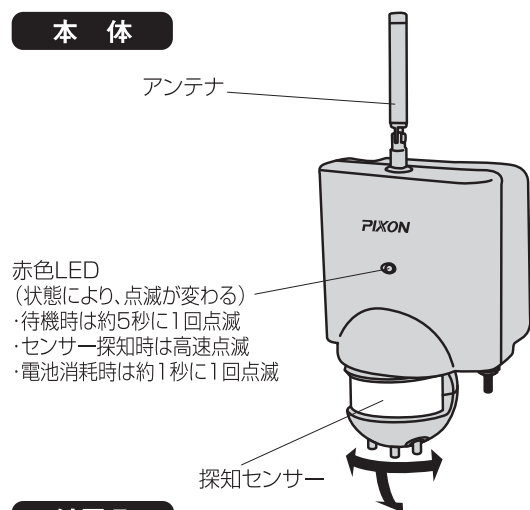
この度は、**ファイアレス**をお買上げいただき、誠にありがとうございます。  
本機を正しくご使用いただくために、必ず**取扱説明書**をよく読んでください。

### 注意

・単独では使用できません。

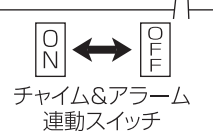
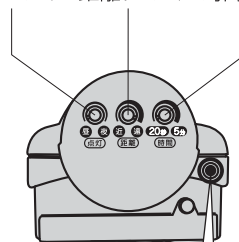
## 1. 部位説明

### 本体

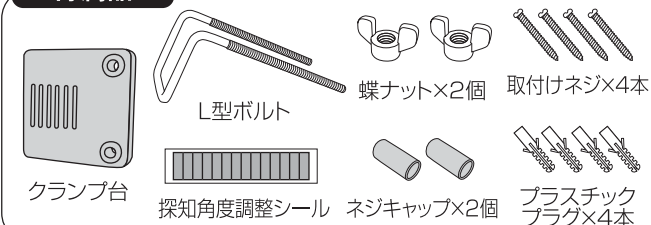


### センサー調整部

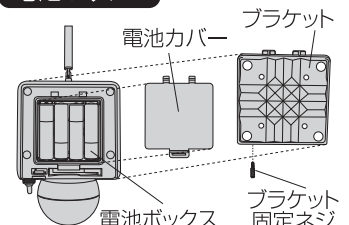
点灯ツマミ 距離ツマミ 時間ツマミ



### 付属品



### 電池ボックス



## 2. 仕様

電圧	DC 6V
乾電池	単3アルカリ乾電池×4本(別売)
乾電池寿命	約5ヶ月(アルカリ乾電池使用で、1日に20回センサー反応した場合)
消費電流	8mA(電波発信時)
発信周波数	315MHz
電波到達距離	見通し約30m 見通し約50m
セレクトチャンネル数	256チャンネル(16×16チャンネル)
センサー探知方式	焦電型赤外線センサー
センサー探知範囲	水平約180°・約12m
動作保持時間	約20秒～約5分
本体のサイズ	幅96mm×奥80mm×高さ210mm(クランプ除く)
クランプの取付けサイズ	厚み 最小約15mm～最大約110mm
	パイプ径 最小約30mm～最大約85mm
本体重量	約270g(クランプ除く)
設置場所	屋内、屋外用(防雨タイプ)

### 3. ⚠ 警告

#### ①屋外に取付ける場合は

- 本機は防雨構造です。通常の雨、風には耐えますが、防水タイプではありませんので、大量の水のかかるような所には取付けないでください。
- ※防雨構造はIP-44電気機械器具の保護等級について許可を受けた規格です。

#### ②屋外、屋内に関係なく、本機を斜め、下向き、逆さまには取付けないでください。

#### ③本機を改造しないでください。

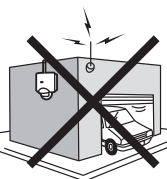
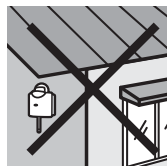
#### ④電波を出す器具の近くには取付けないでください。

- 電波を出す器具や本機が誤作動する時があります。

#### ⑤医用電機機器に与える影響

- 発信電波が医用電波機器、医用電機機器に与える影響は極めて少ないものですが、安全管理のため発信機は医用電機機器から2m以上離して使用してください。

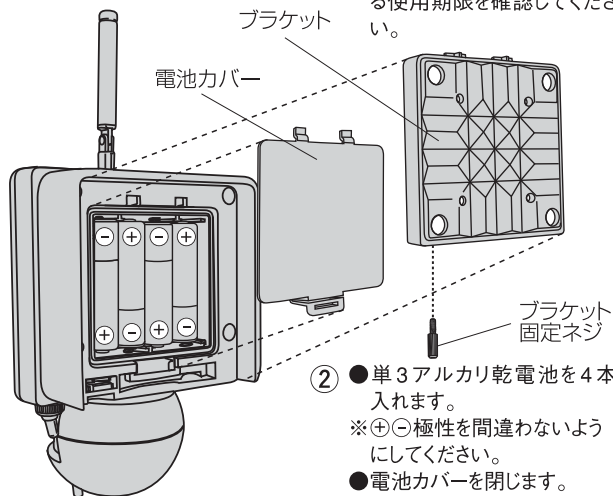
※本機は探知範囲内に進入する物（人、車等）に対して注意を促しますが、盗難犯罪が発生しても一切の責任は負いません。  
※製品改良のため、仕様および外観は、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。



### 4. 電池の入れ方、交換時期

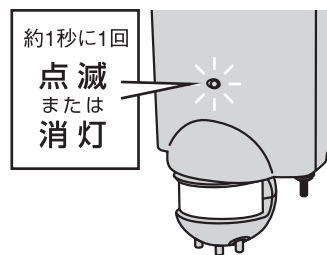
#### 電池の入れ方

- ブラケット固定ネジを取外し、ブラケットを取外します。
- 電池カバーを開けます。
- 乾電池には使用期限があります。乾電池に記載してある使用期限を確認してください。



- 単3アルカリ乾電池を4本入れます。
- ※⊕⊖極性を間違わないようにしてください。
- 電池カバーを閉じます。
- ブラケットをブラケット固定ネジで取付けます。

#### 電池の交換時期



- 赤色LEDが消灯、または点滅が早くなる（約1秒に1回の点滅）と電池の交換時期です。
- ※通常は約5秒に1回の点滅です。

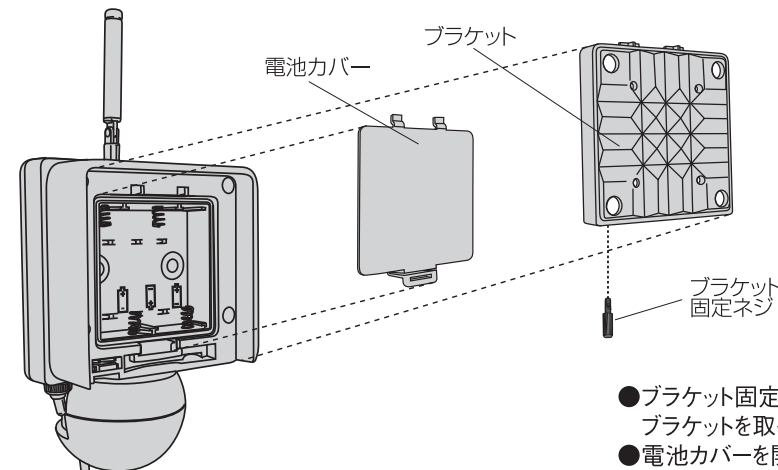
- センサーが探知しても、ライトが点灯しなくなったり、点滅をはじめたらセンサーの電池交換時期です。

### 5. チャンネルの確認・切替え

- 本機と相手の受信機（別売）のチャンネルが同じ組合せか確認してください。（ワイヤレスシリーズは出荷時に緑のチャンネルはI、黄色のチャンネルは9に設定していますので、そのまま使用できます。）
- 本機と相手の受信機を取付ける前に、本機のセンサーを動作させて、相手の受信機が動作すればチャンネルは同じ組合せです。（“7.本機と受信機（別売）のテスト動作”を参照）

#### チャンネルの切替え方

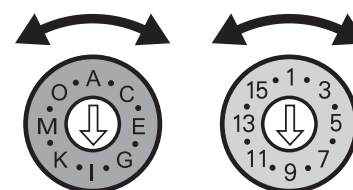
①



- ブラケット固定ネジを取外し、ブラケットを取外します。
- 電池カバーを開けます。

②

- 緑と黄色の内側の矢印の指すチャンネルが相手の受信機と同じ組合せか確認してください。
- ※組合せが間違っていると動作しません。



- マイナスドライバーで内側の矢印を回してください。緑と黄色のチャンネルの組合せで256通りのチャンネルに替えることができます。

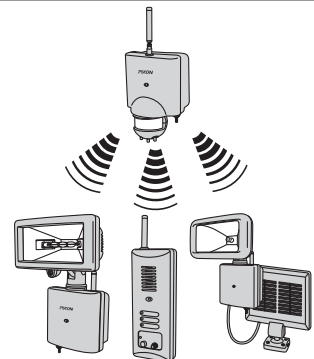
- チャンネルは256通りできます。緑のチャンネルで16切替え、黄色のチャンネルで16切替え、組合せは256通りできます。近所に同じワイヤレスシリーズを設置されていますと混信し誤動作をしますのでチャンネルを切替えてください。

- ※ボイス付チャイム&アラームと組み合わせる場合のみ、片側のチャンネルが“I”、“M”、“E”の3チャンネルに固定されていますので、本機の緑のチャンネルは“I”、“M”、“E”の3チャンネルと黄色のチャンネルの16切替えでご使用ください。

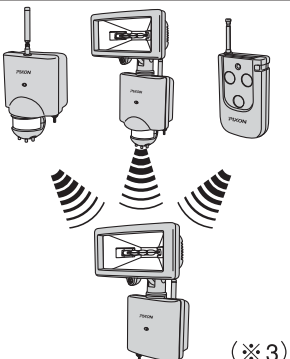
## 6. ワイヤレスシリーズの組合せ

チャンネルを切替えることで、発信機と受信機の組合せが自在にできます。  
同じチャンネルに合わせることで、組合せができます。

### 1つの発信機と複数の受信機の組合せ

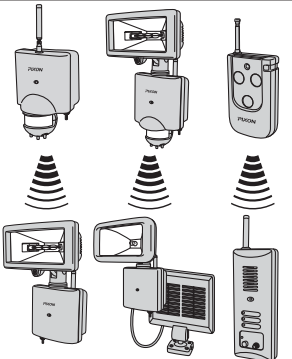


### 複数の発信機と1つの受信機の組合せ



(※3)

### 各組合せのチャンネルを合わせれば混信しません



※3…2台以上の発信機が同時に発信した場合、受信機が動作しないことがあります。故障ではありません。

## 7. 本機と受信機（別売）のテスト動作

### 7-1. 本機とライトの場合

① センサーのツマミ調節	② ライトの電源を入れる	③ センサー探知範囲に入り、すぐに出る
<ul style="list-style-type: none"> <li>点灯ツマミを <b>昼</b> に回す</li> <li>距離ツマミを <b>遠</b> に回す</li> <li>時間ツマミを <b>20秒</b> に回す</li> </ul>	<p><b>ライト消灯</b></p> <p>約30秒間は反応しない</p>	<p><b>点灯</b> → <b>ゆっくり消灯</b></p> <p>約20秒後にゆっくり消灯</p>

- ⚠️ **注意**
- 点灯、消灯しない時は各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。
  - ライトが点灯しない場合は、一度センサーの探知範囲から2分以上離れ、再びセンサーに近づくとライトが点灯します。

### 7-2. 本機とソーラーライトの場合

① センサーのツマミ調節	② ライトの電源を入れる	③ センサー探知範囲に入り、すぐに出る
<ul style="list-style-type: none"> <li>点灯ツマミを <b>昼</b> に回す</li> <li>距離ツマミを <b>遠</b> に回す</li> </ul>	<p><b>ライト消灯</b></p> <p>約30秒間は反応しない</p>	<p><b>点灯</b> → <b>消灯</b></p> <p>約20秒後に消灯</p>

- ⚠️ **注意**
- ソーラーライト はセンサーの時間ツマミに関係なく、約20秒で消灯します。
  - 点灯、消灯しない時は、各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。
  - ライトが点灯しない場合は、一度センサーの探知範囲から2分以上離れ、再びセンサーに近づくとライトが点灯します。

### 7-3. 本機とボイス付チャイム&アラームの場合

① センサーのツマミ調節	② 電源を入れる	③ センサー探知範囲に入り、すぐに出る
<ul style="list-style-type: none"> <li>点灯ツマミを <b>昼</b> に回す</li> <li>距離ツマミを <b>遠</b> に回す</li> </ul>	<p><b>消音</b></p> <p>電源を入れた直後は、音が鳴る事がありますが、故障ではありません。消音（鳴り終わる）するまで待ってください。</p>	<p><b>鳴る</b> → <b>消音</b></p> <p>セットされている音が鳴り終わると消音します。</p>

- ⚠️ **注意**
- ボイス付チャイム&アラーム はセンサーの時間ツマミには関係しません。
  - 点灯、消灯しない時は、各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。
  - アラームは約30秒間鳴ります。センサーの探知範囲に続けると、消音しません。
  - 一度センサーの探知範囲から消音するまで離れて、再びセンサーに近づくとセットされている音が鳴ります。

## 8. チャイム&アラーム連動スイッチの使い方

本機と別売の ボイス付チャイム&アラーム を組合わせた時に使用します。

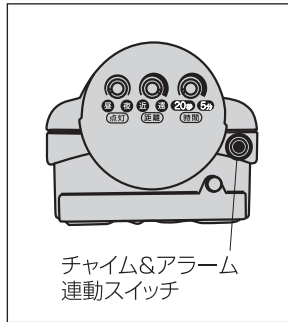
### ●チャイム&アラーム連動スイッチがOFFの時

センサーの調節ツマミの“点灯ツマミ”に関係なく、ボイス付チャイム&アラーム が昼も夜も鳴ります。

### ●チャイム&アラーム連動スイッチがONの時

センサーの調節ツマミの“点灯ツマミ”に連動して、ボイス付チャイム&アラーム が鳴ります。

(例) 点灯ツマミを **夜** に回している場合  
ボイス付チャイム&アラーム は夜、暗くなってから鳴ります。



チャイム&アラーム  
連動スイッチ

## 9. センサーをお好みのモードに調節します

### ①点灯（明かりセンサー）の調節

- 別売の(ライト)、 に対しての調節。
- 別売のボイス付チャイム&アラームに対しては、チャイム&アラーム連動スイッチをONにしてください。

**昼も夜も点灯・夜 暗い時だけ点灯**

点灯させる周りの明るさ調節は図1のように点灯ツマミ **昼** から **夜** にすることで調節することができます。

※実際に点灯させたい周りの明るさの時に調節してください。

※夜でも他の照明の光が当たる時は、ツマミを **夜** にすると点灯しない場合があります。  
点灯するまで少しずつ **昼** 側に回して調節してください。

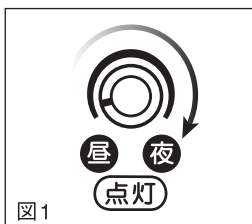


図1

### ②距離（人感センサー）の調節

感度の調節は、図3のように調節ツマミを **近** へ回すと弱くなります。

※人以外にも動きのある熱源に探知しますので、小さな犬、クーラーの熱、太陽光の変化等に誤動作を少なくしたい時に調節します。また、探知距離も短くなります。



図2

### ③時間（点灯時間）の調節 **約20秒～約5分**

#### ●別売ライト、ライト一体型センサー に対しての調節

点灯時間の調節は、調節ツマミを図3のように **20秒** から少しずつ回し、その都度、点灯時間を確認し、調節してください。

※センサーの探知範囲に入り点灯を確認後すぐに探知範囲外へ出てください。

※探知範囲に人がいつまでもいると点灯時間が延長され消灯しません。



図3

### ④センサー探知角度の調節

探知したい場所へセンサーを向けてください。

探知角度を狭くしたい時は探知角度調整シールを図4のようにセンサーレンズ側面部に貼ります。



図4

## 10. センサーの探知範囲

センサーは最長約12m×180°の範囲で動く人や車を探知します。

**焦電型赤外線センサーの探知距離** (距離ソマミが **遠** 側の時)

### ●センサーに向かって左右に横切った場合 (敏感に反応します)(本体取付け高さ2.5mの場合)

図1

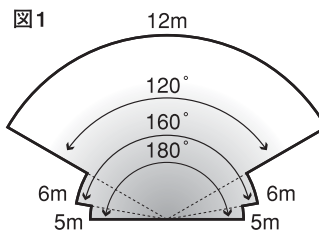
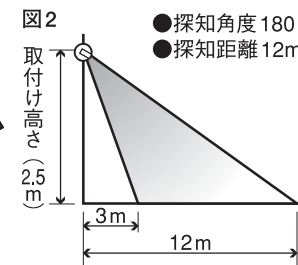
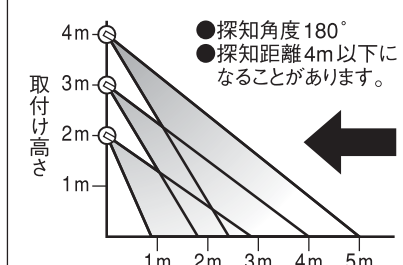


図2



### ●センサーに向かって直進した場合 (探知が鈍い)(本体取付け高さ2.5mの場合)

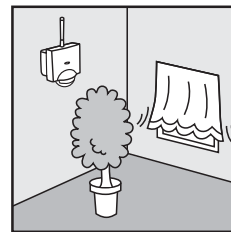


※センサーに向かって左右に横切った場合は敏感に反応しますが、センサーに向かって直進した場合は、極端に探知が鈍くなります。図1、図2の条件に合う場所に取付けてください。

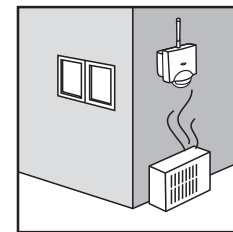
※夏場など、周囲の温度が高く、人からでる体温との差が小さい場合は、探知が鈍くなり、ときには探知しない場合があります。

## 11. 取付け前の注意

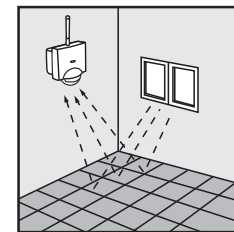
センサーは、周囲の明るさと温度変化に探知するので、図のような場所に取付けると、誤動作や動作しない時があります。



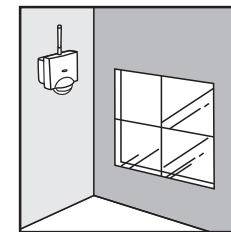
風などでゆれる植物や  
カーテン等の近く



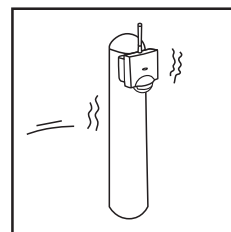
エアコン等の送風を  
受ける所



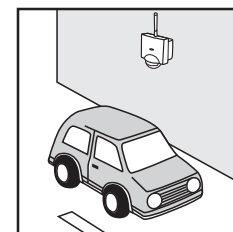
大理石の床や壁等の  
光の反射を強く受ける所



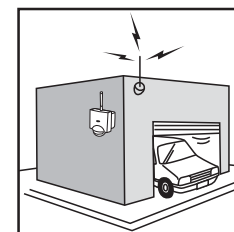
ガラスや壁ごしの所



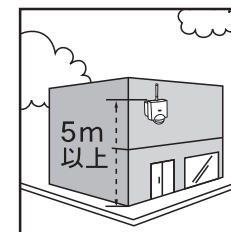
強い振動を受ける所



車の通る道路に面した所



電波の強い所



取付け高さが5m以上の所

**注意（電波が原因で動作しない場所）**

- 発信機（※1）と受信機（※2）の間に金属や鉄筋コンクリート壁がある。  
周辺が金属で囲まれている場所。（スチールキャビネットの間、カラオケボックス等）
- 壁面内に断熱用のアルミ箔を貼り付けたグラスウール。
- テレビ、ラジオの発信所近辺の強電界地域または各種無線局が近くにある場所。
- 発信機（※1）と受信機（※2）の間の距離が離れすぎている。
- ※本機の近くで携帯電話やPHS電話を使用している。
- ※テレビ、ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、コードレス電話、FAX、パソコン、OA機器や家電製品から2m以上離してください。

## 12. 電波到達距離

### 発信機

### 受信機

見通し距離で約30m

約**30m**

見通し距離で約50m

約**50m**

※発信機と受信機の間に障害物があると極端に電波到達距離が短くなる場合があります。取付ける前に実際に動作を確認してください。

※発信機と受信機の取付け高さに差がありすぎると、電波到達距離が短くなる場合があります。発信機と受信機の取付け高さは0m～2mの範囲で取付けてください。

## 13. ブラケットで壁に直接の取付け方

- ブラケット固定ネジを外し、ブラケットを取外します。
- 壁等にブラケットの穴に通し、印を付けます。  
(アルミ板、薄鉄板の場合)  
印に電気ドリル等でφ3.3mmの穴を開けます。  
(木はφ3mm)
- 付属の取付けネジでブラケットを取付けます。
- 本体をブラケットの上の爪に差込み取付け、ブラケット固定ネジを締付けます。

## 14. クランプでの取付け方

⚠注意 クランプでの取付けは、万一落下しても事故の起こらない場所に取付けてください。

角柱・壁はL型ボルトが当たるまでしっかりと入れて、挟み込んでください。

丸柱・パイプは大きさに合わせて挟む位置を替えてください。

細いパイプ 15~55mm

太いパイプ 55~85mm

中心

中心

### 14-1. 上向きの柱、壁、パイプの場合

- ブラケット固定ネジを外し、ブラケットを取外します。
- ブラケットにL型ボルトを差しします。  
※壁への取付の場合、壁の取付けたい向きに合わせてL型ボルトを差ししてください。
- ブラケットを本体に取付け、ブラケット固定ネジを締付けます。

### 14-2. 横向きの柱、壁、パイプの場合

- ブラケット固定ネジを外し、ブラケットを取外します。
- ブラケットにL型ボルトを差しします。  
※本体が落下しにくいように図の通りの穴にL型ボルトを差ししてください。
- ブラケットを本体に取付け、ブラケット固定ネジを締付けます。
- 柱、壁、パイプを間にして、クランプ台の穴にL型ボルトを通し、蝶ナット2個でしっかり締めます。  
ネジキャップを2個取付けます。